

平成 28 年度 第 1 回 市長と語ろう！笠間タウントーキング 議事録

開催日：平成 28 年 5 月 10 日（火）午後 7 時～8 時 25 分

場 所：稲田石材商工業協同組合事務所 2 階会議室

出席者：稲田石材商工業協同組合青年部 14 名

《フリートーク（意見交換）》

○青年部 日本各地の石の産地の中心部には、石のオブジェがある。石のまちをPRしている。寄付や寄贈もあると思うが、目に留まる場所においてあるのがいいと思う。市の補助があればいい。キャラクターなど石のオブジェを目につくところに数多くあるというのが石のまちをPRすると思う。

○市長 石切山脈の方にオブジェがあります。市でも合併前後にいろいろ活用してきた経緯があります。廃校に稲田石の台座があり、その上に彫刻があります。それを再配置しようかと考えています。この地区でいえば、いなだこども園に予定しています。笠間は芸術のまちで、笠間日動美術館があり、笠間小学校の周りには彫刻が数多く置いてあります。

昔置いたものが日の当らない場所に眠っているものがあるので、それを目に留まる場所に動かしたいと思っています。

旧中野邸の門柱を譲っていただいたので、どこかに使っていきたいと考えています。そういうことで、石のまちを少しでも醸し出していきたいと思っています。エキシビジョンの眠っているモニュメントがもったいないと思っています。

○青年部 エキシビジョンのモニュメントは大小あわせて 200 個ほど余っている。大きいものでなくてもいいので、数多く設置することが効果的と思う。

○市長 笠間市だけでは限界があります。他の自治体にも売り込んでもらいたいと思います。

○青年部 稲田駅前整備については、お世話になった。私たちの提案に近い形になった。石のキャラクターについては、「稲田を考える

会」でも出ていた提案だ。今は、NPOを立ち上げ、稲田縁日でもやる。お力添えがほしい。

○市長 民間の部分は難しいが、公の部分では、いろいろな整備を進めていくことで、こういう使い方をするとおもしろいという提案は大いに結構だと思います。今日、お配りした資料「わかりやすいかさまの予算」に市の主な公共工事が載っています。提案は前向きに考えます。遠慮なしに提案してください。

○青年部 昔は、擁壁、土留めと言えば、間知積み。今は費用面でコンクリート 2 次製品のブロック。石のまちであれば、そういうところに石を使う予算を工面してほしい。時間はかかってもいいので、ひとつずつ増やしていくことが伝統に繋がる。県とも意見交換をした。どうしてもコンクリート 2 次製品になる。稲田石は地場産業と言っているがダメだ。そこを頑張ってもらいたい。

○市長 行政もコストを考えなければなりません。その場その場でデザインを考えるとところは間知積みを使うなどです。佐白山周辺などで使う場合は、間知積みでやるべきだと思います。稲田で使うなら、道路の縁石は稲田石になると思います。今後にも必要などころには使う考えでいきたいと思います。

○青年部 昔の稲田川の護岸は全部石だった。でも、直すときはコンクリートブロックだ。そうすると石のまちの雰囲気じゃ無くなってくる。そういう寂しさを感じる。

○市長 県よりは、市の方が使っていると思います。

○青年部 県と調整はしているが、担当者が替わってしまい前に進まない。

桜川市では使う頻度が少ない。笠間市はすごいと桜川の業者に言われている。だから、県全体でも稲田が中心で動いている。

稲田の業者の 8 割は墓石中心である。建設については、株式会社 A で年商が 19 億円。墓石だけではダメになるのは目に見えている。建築物、モニュメントにもう少し振り分けてほしい。

石工事に関しては、県でも三の丸周辺で使った。ポイント的に使ってもらいたい。石積みの職人がいなくなっているので、後継者をつくる意味でも、少しの金額でもいいのでお願いしたい。

○市長

三の丸は景観的要素で使ったのだと思います。そういうところは他にもあると思います。市でもそういう場所には使っていきたいと思っています。

私は皆さんとの付き合いも長いので、ある程度石のことはわかります。しかし、市職員は分からないと思います。皆さんもそういう職員に、ここに使う石は磨かなくてもいいとか、こう使うと安くなりますよとか、提案してほしいと思います。市職員にも1級建築士がいますので、意見交換してほしいと思います。

○青年部

稲田の現状は、8割以上は墓石が中心だ。墓石が売れなければやっていけない。行政からの仕事をもらっても焼け石に水みたいなところがある。墓石をどうやって売るか、真剣に考えて行かないと産地として生き残れない。

稲田の石屋さんと同じくいいお墓が買えるというように広めていかなければいけないと思う。

稲田縁日の中で、墓石展をやった。人はそう多くは無いが、引き合いはポツポツとある。これからイベントをやるなら墓石の展示即売会をやるべきだと思う。それに対して市は協力できないか。

○市長

出来ないものではないと感じます。ただ、5、6人集まったところに協力することは難しいが、組合でやるとなれば協力しやすいです。何をメインとしてやればいいのか組合内部で話し合ってもらえば必要があります。

○青年部

お墓がほしい人にどれだけPRするかで決まってしまう。お墓がほしい人にどれだけ知らせられるかということだ。

○市長

広報はできると思います。ただお金を出すということは組合主催とかの形が必要です。組合で申請してください。なんでも

一度やってみるべきと思います。

○青年部 私会社は福原にある。会社の前に信号機があって、そこに石のモニュメントがある。ここから石のまちということで設置したと聞いている。

しかし、なぜ、そこに石のモニュメントがあるのか誰もわからない。知らない人は、笠間焼のまち、焼物のまちとわからない。だから文字で分かりやすく表示するようにした方がいいのではないか。通りがかりの人が分かるようにするべきと思う。

○市長 車で通っている人にわかるようにどう表現するかですね。

○青年部 桜川市では4車線のところに「石匠のみち」と表示してある。

○市長 友部ICの出口に石のモニュメントがありますが、なんでという人はいますね。岩間地区の国道355号バイパスにある大きな焼物もどうしてって人もいます。

稲田では石のまちのイメージ作り、岩間で石、焼物はピンとこないと思います。

広報関係で、市にできることは何かありませんか。PRで行政にやってもらいたいことはないですか。

私は東京でまちのPRをするときは、稲田石のことを言います。最高裁判所などに使われたと紹介しています。東京の方では稲田石のことは知らないです。笠間焼、笠間稲荷神社の方が知られています。

PRするのに稲田石なのか、お墓なのか難しいですね。お墓でPRするのか、稲田石でPRするのかという議論もありますけど、何か我々が手伝えることは無いのかと思います。

○青年部 しつこいかもしれないが、お墓が買えるまちという方がいいと思う。稲田石の産地ではなくお墓の産地というPRの方が良いかと思う。お墓が買えるまち稲田がいいと思う。

○市長 行政としては難しいと思います。

○青年部 石の産地とお墓が直結していない。パンフレットにも稲田石

の話は載っているが、お墓は出てこない。

○市長 お墓と建設分野に二つのパンフレットなどに分けた方が売り込みやすいのではないですか。稲田石のPRは足りないと思います。もっとPRしていった方がいいと思います。我々もお手伝いしていきたいと思います。

○青年部 我々も勉強不足と感じた。土留めの間知石は費用が膨らむ。行政に使ってもらえるように工期も短くできるように変化しなければと感じた。コンクリート2次製品のような金額であれば、選ばれると思う。

○青年部 今の稲田の石屋にそれだけの余裕、パワーがあるのかと思う。やりますと言っても、誰がやるのか。だから、先ほどの墓石の話になる。人が死んで喜んでいるわけではない。家族のきずなの問題だ。先祖を大事にするためのお手伝いの話だ。そういうアプローチであればPRしやすいのではないか。

○青年部 墓石の最近の動きは、ウチはいいですという感じである。千葉に仕事に行った。合葬墓だった。板石を張り合わせて200個から300個の骨壺が入っている。太刀打ちできない。その合葬墓が都内で増えているということは、地方にも広がる。今の墓石事情は変わってきている。

○青年部 どうしてもお金になってしまう。数百万円が数十万円だから。墓守、後継ぎがない。

○青年部 家族の考え方が変わってきている。

○市長 石屋さんの本来の仕事ではないかもしれませんが、お墓の管理等は頼まれないですか。これからは空き家ではないが、空きお墓が増えてくるでしょう。

○青年部 今は、補修ばかりになってきている。

○青年部 核家族化してきている。夫婦どちらかが亡くなったらホーム

に入る。そのため、お金を貯める。だからお墓にお金をかける気にならないのではないか。

○市長 そういうニーズに合わせるビジネスも必要ではないでしょうか。

○青年部 隙間は必ずあって、賢い人もいる。稲田の石屋が群馬県、東京都でも施工するというのを知らない。費用も変わらない。一社でやっても本当なのかと思われてしまう。組合でやって、稲田に行けば石屋もお墓も選べる。産直のものが安く買える可能性がある。そういう業者を選べるということで、関東一円で広められれば、お金を使っていいものがほしいという人が集まってくる形ができれば、産地として生き残れるのではないか。遠回りする必要はなくて、お墓が売れないから建設にというのではなくて。

○市長 お墓に絞ってPRするにはどうすればいいのか。

○青年部 基本は営業力だと思う。営業できる人材をどう使っていくかが一つの方法だ。

○青年部 PR活動の仕方だと思う。

○青年部 PRするのは営業を担っている人がやっていくものだと思う。カタログ、チラシを作っただけなど、単純なやり方では、ダメだと思う。営業ができる若い人がいればと思う。

○青年部 行政の人はお墓にアレルギーを持たないでもらいたい。お墓はPRできないということになると思う。死んだ人が入るから、悪いイメージだと。本当はそうじゃない認識を市役所の人には分かってもらいたい。お墓のまちとはホームページに載せられないなど、お墓にアレルギー反応をしないでもらいたい。

○市長 どうするかは議論の余地はありますが、地道にやっていく必要はありますね。

- 青年部 先日、青年会議所の集まりがあった。その中で話があったのは、子どもが生まれたら助成金を出す自治体は多い。でも、なぜ、亡くなった人のお墓を建てるときに助成金が出ないのか。
- 石のまちなら、市の方でも援助してもいいのではないか。死んだ時に笠間の地で眠るということであれば、援助してもいいのではないか。
- 市長 そういう発想もありますね。
- 青年部 お墓のPRは安くてもいいものが手に入るというのが、一番のPR。ただ自分たちだけではできないので、お墓を持ちたい人に対して、市ぐるみでそのような活動ができればいいと思う。
- 市長 具体的にPRをどうやっていくかですね。
- 青年部 このような話は聞かない。日本で初めてやったらなれば、注目、話題性になる。
- 青年部 亡くなった時は宗教観が出てくるから難しいかもしれない。
- 青年部 笠間は観光のまちでもあるので、お墓参りで観光に来てくれるといいかもしれない。
- 青年部 話題作りのため、全部じゃなくて先着順でもいいかもしれない。
- 青年部 終着のまちというのはどうか。
- 市長 話題性はあります。ただ、亡くなった人だけにやるのは難しいですね。
- 青年部 発想はおもしろい。
- 市長 笠間では過去にホープ計画というものがありません。家一軒建てるときに地場産材を使っていきましょうという計画です。一軒建てると、ここには地元の石、この部分には焼物などと

いうように。そうすることで、全体として補助金を出しました。

お墓に単独で補助金を出すのは難しいです。地場産品を条例で推進していくことを検討しています。

○青年部 青年部はここにいるメンバーでほぼ全員だ。昔は70人ぐらいいたと聞いている。20年から30年で目に見えて衰退している。

○市長 いろいろな業界を見ていますが、若い人が13人も集まるのはすごいです。他に比べるといいと思います。

○青年部 助成金だけでなく、金券とかで地元の石を使ったら援助してもらえるようなことはできないか。

○市長 何らかの仕組み、仕掛けですね。例えば、石の産地は全国にあるじゃないですか。先進的にうまくいっている事例とか聞かないですか。

○青年部 香川県の庵治。石あかりロードは行政と一緒にやっているのではないか。

○市長 PRイベントですね。庵治の石材組合の取り組みを調べてみます。他にありますか。

○青年部 愛知県の岡崎市。

○市長 そこも調べてみます。
少し聞きたい。石屋さんでは何を勉強するのか。何が必要なのか。何に需要があるのか。

○青年部 特殊工具やノミの使い方を勉強する。

○市長 稲田では必要ですか。習いたいという需要はありますか。

○青年部 市で協力してくれるならいいと思う。

○市長 技術の育成ということで、焼物の大学校が始まりました。

石屋、大工、左官の技術は、親方に付いて覚えたが、今はそれがないです。業界の協力が前提ですが、技術を伝える場というのは、最近よく考えています。

笠間にも職業訓練校があります。大工の育成です。夜に仕事が終わってから勉強しています。そして現役の人がボランティアで教えています。市ではそれをもう少し充実していこうと施工組合の人たちと話し合っています。

○市長 国家資格は何がありますか。

○青年部 石積み、石材加工、張り材などがある。自分のところで墓石しかやっていると携われない。ただ、石積みの資格は持っていたてもいいと思う。

○市長 資格もPRの一つの材料ですね。